

公表

事業所における自己評価結果（保育所等訪問支援）

事業所名	社会福祉法人恵友会 こども発達支援センターびーち		公表日		令和8年3月4日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点	課題や改善すべき点	
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には園や学校で普段使用している教具教材を利用し、いつも通りの保育の中で負担なく先生たちが取り組めるようにしている。 事業所内の絵カード、タイマーなどは持っていき、生活の中での使い方や効果などを実践してみることで、取り入れやすいように促している。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚支援や先生と共通認識を図ることのできるツール等、訪問支援時に使えるタブレット（スマホタイプ）などの使用を検討していく。 先生に渡す資料はあるが、より場面別の資料や環境の写真集みたいなものを使用していくことで、伝わりやすくする。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> 各園や学校と相談し、事前に職員の人数、職種、職員の希望等を確認しながら訪問支援をさせてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> その日に訪問支援に入るクラスとメンバーによっては、複数人数で訪問支援に入れると良いと感じることもあるので、園とも交渉して臨機応変に対応できるように働きかけていく。 訪問支援ができる職員の育成に力を入れることで、より多面的な支援ができるようにしていく。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	80	20	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング、支援計画の共有をしている。 園や学校ともその都度確認をとり、お子さんが困っているところ、先生が困り感を感じているところを共有している。 児発のミーティングの際に訪問支援での様子を報告する機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援の入り方や進め方は、訪問支援員と園の先生を中心に考えていることが多いので、今後は児発の先生とも共有しながら修正できるように心がけていく。 訪問機会の少ない職員とも共有し、内容理解や共通支援につなげていけるとよい。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> 評価表に限らず、その都度保護者の意向を聞き、園や学校とのすり合わせを行えるように意識している。 職員会議で共有し、改善点を支援につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート評価を受け止め、保護者の方の意向を今後活かせるように意識していく。 訪問支援へ行く機会の少ない職員とも情報を共有し、改善点を確認し合えるようにする。
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングや会議を通して、直接訪問支援に行っていない職員も含めて、情報共有の機会を設けている。 毎回支援の後に園や学校の特徴や訪問支援のスタンスを確認し、支援の入り方や振り返りの伝え方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場や保護者との関わりの中で、知っている情報が異なることもあるので、その都度情報共有をしていく。また、園や学校によって、必要とされる支援、求められる方向性や支援内容が異なってくるため、学校や園の方針に添った支援ができるように職員の質も高めていく。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	80	20	<ul style="list-style-type: none"> 市の担当者とアンケート集計後に話し合う機会を持ち、今後の支援の方向性や中核機能事業所として求められていることを確認した。 その都度訪問先の意見や評価を取り入れながら業務を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も第三者の立場である人からの声にも耳を傾け、業務改善を図っていく。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、療育や対人関係の研修を法人内で実施している。（職員会議、合同勉強会、グループワークなど） 外部の研修に参加した際には、伝達研修を行うことで、研修内容を共有できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も勉強会や研修会へ積極的に参加し、職員のスキルアップの機会を設けていく。

適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援を利用する前から、電話などでお子さんを取り巻く状況を確認し、すぐに試せそうなことは、訪問支援前から園の先生にお伝えさせてもらっている。 ・びーちに居るときと、園に居るとき、訪問支援員が訪問したときなど、一緒に居る相手によって、違った姿を見せる子もいるので、訪問支援に入らない日のアセスメント（チェックシート）も園の先生に協力してとってもらうことで、多面的にその子をとらえられるようにしている。 ・様々な職種からの視点・意見を取り入れ支援計画を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各職種（保育士、作業療法士、言語聴覚士など）でのアセスメントも必要であれば、とれるようにしていく。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・びーち内でケース検討を行うことで、支援に関わる職員全員が確認できる環境が整っている。 ・園の中での困り感、実際の発達段階なども踏まえ計画を作るように意識している。 ・児発の様子も共有し、今の目標・課題を吟味したうえで作成している。 	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度、訪問時に現状や今後のことを訪問先の先生と共有することができており、どこが困っているか、次にお子さんが学んでいくべきところは何かを話し合っている。 ・何に困っているのかを子ども目線、職員目線からとらえ、現実的に可能かどうかも含めて、折衷案を出せるように心がけている。 	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画や訪問先での状況等を訪問支援チームを中心にしながらも、朝のミーティングにて全体に情報を共有し、園で頑張ること・びーちで頑張ることを明確にしている。 ・保護者の要望と、園の先生との話の両方を考慮し、お子さんにとって必要な支援を一緒に確認することで、より良い支援を進めている。 	
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用時に客観的な指標としてチェックリストを作成し、アセスメントを行っている。また、年齢によって求められる段階に達しているかなども、必要であればアセスメントしている。 	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに沿って、状況や場面も考慮しながら設定している。 	
	14	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝施設全体でミーティングを行い、支援内容等を全員が把握できるようにしている。また、当日支援だけでなく、日頃のびーちでの支援や間接支援にもつながるように分担している。 ・保育士・心理師・作業療法士、言語聴覚士の意見も聞き、訪問支援に取り組んでいる。 ・多職種訪問を意識し、複数の子の支援に入る時には役割分担をきちんと確認している。 ・最近のびーち内での様子・課題を確認し、訪問に向かうことができている。 	

	15	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問後、上司や同僚に報告・相談し、振り返りを行っている。 ・事業所内での様子も踏まえ、園での様子を総合的にみることができている。 ・園の先生も含めどこを誰からどこまで伝えるのか等毎回確認している。 ・ミーティングや打合せにて確認、共有することで職種ごとの視点で考えることが出来ている。 ・訪問先での様子や支援内容を共有し、職員間の療育に差が生じないようにしている。 	
	16	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や園での状況や担任の先生の進め方や方針を尊重し、流れを合わせながら支援にあたっている。クラス体制やクラス運営などを把握し、園、先生に応じて無理のない範囲での支援方法を伝えている。 ・園によっては大切にしているものが違うので、その都度確認し、先生との関係性づくりに努め丁寧に行っている。 	
	17	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度ケース記録を取り、必要に応じて園にも報告や案内として渡している。 	
	18	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回状況を確認して今の課題、支援の入り方を考えている。 ・訪問時以外でも電話連絡等行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援のみを利用している利用者の方は直接お会いする機会が少ないため、LINEや電話連絡での対応を、より丁寧に行えるようにする。
関係機関や保護者との連携	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援を担当している職員が参加している。 ・電話等でも定期的に連携し情報共有できている。 ・サービス担当者会議はあまりないが各関係機関とはその都度会議や電話で情報共有できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の先生を含めた担当者会議が増えると良いと思うので、相談支援員にも働きかけ、連携を深められるようにしていく。
	20	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・こども家庭センターや教育委員会とも情報をこまめに共有できしており、適宜いつでも連絡をとれるような体制である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校とも連携し、就学後の継続的な支援に繋げていく。
	21	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供書を渡して情報共有を図っている。 ・検査結果等の書類をお渡しする際は可能な限り検査者が直接お話しするようにしている。 ・園での様子、事業所内での様子を見て総合的な内容を共有することができている。 ・こども家庭センターや教育委員会とも情報をこまめに共有できている。 ・就学の際には、園・びーちでの様子を共有し、どこからどのように伝えていくのかすり合わせを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学の前から教育と連携し、電話連絡や情報提供書を使用しながら就学後の継続的な支援に繋げていく。
	22	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加する機会を設け、研修に参加した職員から、参加していない職員に伝達研修を徹底している。 	
	23	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・さくら市をはじめ県の地域支援マネージャーとして各地域の会議にも参加している。 	

保護者等への説明等	24	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の際に家庭での様子をお聞きするとともに施設内での様子もお伝えし共有している。 ・児発利用時に積極的にコミュニケーションを取るよう意識している。 ・毎月保護者の方と確認を取り訪問支援の時期や時間帯を相談している。 ・訪問支援のみ利用の方は直接お会いする機会が難しいため、可能な限り電話でお話できるようにしている。 	
	25	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年施設内でペアプロ、ペアトレ、びあカフェ、その他各種勉強会を行っている。 	
	26	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時や利用料の変更が入る際にはその都度確認しており、何か相談等あった際はその都度、丁寧に対応している。 	
	27	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・初回時に説明をし担任の先生や関わる先生が変わった際もその都度説明している。 ・新規の園にはもちろんだが年度切り替えの際にも各クラスにその都度説明を行ない、園の方針を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すれ違いや不一致が生じた際には、気づいた段階で話し合えるように体制を整えていく。また、訪問支援員が立場をわかまえて、支援にあたるように、支援員育成にも力を注いでいく。
	28	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者目線の支援計画と園の実際の困り感をすり合わせ、同じ方向に向けるように心がけている。 	
	29	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・計画作成に当たり保護者からの聞き取りを行い、内容の説明・確認をしている。 	
	30	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時やLINE、電話等を使用しながらいつでも相談できる環境となっている。 ・個別面談の時間も取ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もご家族の希望に合わせて個別面談の時間を設けていく。
	31	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	80	20	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい支援としてきょうだい児勉強会をはじめて行った。 ・びあカフェなども開催し、保護者同士で集える機会を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズに合わせて、今後も交流の機会を作っていく。
	32	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の相談しやすい方法(面談、電話、LINEなど)に合わせ、申し出があれば話し合いの環境を整えている。 ・園との兼ね合いも考慮しつつ、すぐに対応できるよう体制を整えている。 	
	33	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	80	20	<ul style="list-style-type: none"> ・見学時に案内やパンフレットにて情報を伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援の様子を動画、写真等でお伝えすることは難しいが、訪問へ行ったタイミングでLINEなども利用しながら、状況を分かりやすく保護者へ伝えていく。
34	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100	0			
35	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的支援など個人によって理解しやすい手法で伝え方の工夫をしている。 		

訪問先施設への説明等	36	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・上司のサポートあり。 ・電話等でいつでも相談できる関係性を意識している。 ・専門的な内容についても（ST・OT）、その場で伝えたり施設内の専門職と情報交換したりしている。 ・電話連絡をしたり、びーち見学を受け入れたりしている。 ・センター機能として、訪問支援該当児童だけではなく、先生の困り感や園全体の相談にも必要であればのようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や園からのびーち見学を積極的に受け入れることで、情報の共有をスムーズにし、共通理解に繋げていく。
	37	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	80	20	<ul style="list-style-type: none"> ・終了後に振り返りの時間を作ることができるよう園に合わせて実施し、訪問先の先生方の負担でない時間で支援の方向性の一致を図ることができている。 ・どこ部分を保護者に伝えていか、どんな伝え方をしていくかカンファレンスをしている。 ・その都度、訪問先とお話や次回の相談等は行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援の様子や伝え方について、十分確認が取れていないケースがあったので、再度何のための訪問支援なのかを施設内で確認し、お子さんの最善の利益という考え方を学ぶ機会を繰り返し設けていく。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の様子と園で学んでいるところ、頑張っているところ、頑張らなくてはいけないところを伝えている。先生の対応の仕方、先生と保護者との仲介に入ること、お互いの気持ちのすり合わせを行っている。 ・ご家族の希望を聞きながら直接、またはLINE、電話を利用しながら共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の様子も可能であれば写真や動画でも共有できると良い。 園や学校に確認をとった上で、座位保持椅子の調整の際や給食の様子など、個人情報の取り扱いに十分留意し、必要に応じて取り入れていく。
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100	0		
	40	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・園、学校、先生と信頼関係を築くことがまず重要で慎重に大切に行うことができている。 ・信頼関係の獲得のため慎重かつ丁寧なやりとりを行っている。 ・必要に応じてOT・STが入りニーズにこたえられるよう工夫している。 ・直接的な支援だけではなく、電話での相談にも応じることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OT・ST含め訪問支援を行う職員が研修などを通して専門的な知識を取り入れていく。専門的な支援を取り入れやすいように、分かりやすく伝えることを意識していく。
非常時等の対応	41	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大時の対応の仕方など、園と共通の対応であるかを確認しながら行っている。 	
	42	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会を中心に安全計画に基づいた研修・練習を行っている。 ・熱中症や感染症拡大時など安全な行動を取っていく為の情報共有を会議の場などで定期的に行っている。 	
	43	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットノートの記載だけでなく、ミーティングの場などでも共有をし、再発防止に向けた対策について話し合うことが出来ている。 	
	44	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議にて全体で共有されている。 ・外部研修への参加、職員勉強会での研修を行っている。 ・虐待防止、適切な支援の仕方、メンタルヘルスなどを合わせて研修している。 	
	45	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	80	20	<ul style="list-style-type: none"> ・今後該当する可能性がある子には可能性としての話を伝え、状況を見て、再度相談していくようなスタイルをとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの発達段階や環境によって、代わってくる可能性があるため、きちんとアセスメントをとり、支援に繋げていく。